



# 岐阜県青少年赤十字

## 防災教育推進校活動事例集

はじめに

活動事例－1 岐阜市立厚見学園 … P. 1～2

活動事例－2 岐阜県大垣特別支援学校 … P. 3～4



**2022 年は青少年赤十字は創設 100 周年**

## はじめに

青少年赤十字では、子どもたち一人一人が「人道」「博愛」の心を大切にし、人類の幸せや世界のために尽くせるような人間になるための取組として、『健康・安全』、『奉仕』、『国際理解・親善』の3つを実践目標として掲げ活動しています。

青少年赤十字では、これらの実践目標の一つである「健康・安全」のもと、防災教育をとおして自然災害から青少年の健康と安全を守り、また、学校、地域、家庭における防災意識を高めることで、人間のいのちと健康、尊厳を守ること目的として、防災教育プログラム及び教材の開発、研究を進めています。

岐阜県支部におきましては、上記目的の達成に向けて、開発、研究された防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」等を活用した実践や教育現場における先進的な取り組みを支援することで、本県の JRC 加盟校における防災教育の発展、普及を目指しています。

本事例集では、今年度防災教育推進校として指定された JRC 加盟校の実践が載せられています。「自分のいのちは自分で守ること」に注力した実践、児童・生徒が防災教育で学んだ内容を、家庭や地域住民に対して普及する活動、地域等の組織（消防団等、奉仕団、气象台等）との協働に関する取組など、子どもたちが多くの人と出会い、学び、様々な体験や発見等を通して、防災について学んだ実践が綴られています。

自然災害は忘れた頃にやってくると言われていますが、この事例集が、多くの学校において防災教育推進の一助となれば幸いです。

本事例集をまとめるにあたり、貴重な実践成果をご紹介いただいた防災教育推進校の校長先生方にお礼を申し上げますと共に、ご多用の中、原稿の執筆等にご協力いただきました先生方には心より感謝を申し上げます。

令和4年4月1日

岐阜県青少年赤十字指導者協議会  
日本赤十字社岐阜県支部

## 活動事例ー1 岐阜市立厚見学園

学 校 名	厚見学園 (厚見小学校・厚見中学校) (校長 岡田 芳子)
活動の種類・単位	外部講師や地域との連携による防災教育
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

命・生活・人生を守る防災教育

### 2 主な活動内容

- (1) HUG (避難所運営ゲーム)
- (2) DIG (災害図上訓練)
- (3) 避難所開設訓練
- (4) 命を守る訓練
- (5) ノンスリップマットと飛散防止フィルムの貼付

### 3 事業の実際

#### (1)HUG

- ①実施日時 令和3年7月9日(金) 第5校時
- ②対象者 3年生(86名)
- ③実施内容
  - ・避難所を開設するにあたり、平時にどのような備えをすればよいかについて考える。
  - ・避難所運営の一部として、避難所を利用する人々に対して伝えたいことをポスターにして掲げる活動を通して、避難所生活にどのような難しさがあるか理解する。
  - ・作成したポスターについて交流し、参加者全員で学びを共有する。



- ◎ 避難所開設時に対する備えを考える中で、利用者に対してどのようなことを啓発していくべきかをポスター作りを通して考えることができた。

#### (2)DIG

- ①実施日時 令和3年9月17日(金) 第5校時
- ②対象者 2年生(75名)
- ③実施内容
  - ・災害に向けてどのような備えをすればよいかについて考える。
  - ・通学路の周辺の地図を利用し、危険な場所を推測し、日常から注意することを仲間と交流しながら考える。
  - ・ワークシートに学習したことを記入し、今後の生活につなげる。



- ◎ 災害が起こってからではなく、起こる前に危険回避する。
- ◎ 中学生にもできることがある。
- ◎ 自分の命を守ることが、人の命を守ることになる。

- ◎ 「危険箇所はないか」「どのように危険なのか」「その瞬間の命の守り方」「事前の備え方」「近所の大人に危険を説明して対策を提案するセリフ」など地域の問題に対し、できないと決めつけるのではなく制度やルールを創る、変えることが大切。
- ◎ 想定外を想定する！

### (3)避難所開設訓練

- ①実施日時 令和3年11月14日(日)
- ②対象者 厚見校区住民、中学生ボランティア
- ③実施内容 <中学生ボランティア>
  - ・避難所の受付
  - ・避難場所への誘導
  - ・炊き出し
  - ・非常食のおにぎり作り
  - ・非常食配布



- ◎ 炊き出し用の火おこしでは、慣れないため初めはうまくいかなかったけれど、保護者ボランティアの方に教えてもらいながら、徐々に素早くできるようになってきた。
- ◎ 生徒の中には指示を待つのではなく、何ができるのかを考えて自ら動く姿が多くみられた。
- ◎ 地域団体の方々と連携しながら、地域住民の避難誘導や非常食の配布等に取り組み、地域の一員としての防災意識を高めた。

## 4 事業の成果、効果等

- コロナ禍のため、学校や地域の様々な行事が中止となったり、内容を変更したりという状況であったが、災害はコロナ禍であっても起こりうる。そのため活動内容等を考えながら、できる範囲で活動を行った。
- さらに小中一貫の防災教育のカリキュラム案を作成したり、地域の防災訓練に職員が参加したりして防災教育を推進していく。

## 活動事例ー2 大垣特別支援学校

学 校 名	岐阜県立大垣特別支援学校 (校長 松原勝己)
活動の種類・単位	防災教育について
教育課程上の位置付け	総合的な学習 (探求) の時間

### 1 活動テーマ

ICTを活用した防災教育

### 2 主な活動内容

拡張現実やVRを活用したより体験的でリアルな防災教育を行う。  
疑似体験を行うことでより活発な意見交換を行う。

### 3 「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した公開授業

#### (1)公開した学級等

学年	学級数	参加者数	主な内容・参観対象者
中学部2年	2		iPhone アプリ「AR お天気」を活用した豪雨体験 ゴーグルをかけてアプリを使用し、降雨量による視界の変化を体験した。 参観者、当校管理職、防災担当教職員
高等部2年	1	1	校内の寄宿舎で生活する生徒を対象に、iPhone アプリ「AR お天気」やYOUTUBE の水害映像を使用して床上浸水の疑似体験を行った。 参観者、教職員、寄宿舎職員

#### (2)児童・生徒、授業者、参観された方の感想等

##### ◆生徒の感想

- ・雨がたくさん降ると前が見えなくて怖かった。(豪雨体験)
- ・ゴーグルをかけるのは少し怖かったけど雨がたくさんですごかった。(豪雨体験)
- ・浸水になったら早く逃げないといけないと思った。(浸水体験)

##### ◆参観した教職員の感想

- ・防災と聞くと怖かったり、興味をもてなかったりして参加できない生徒もいると思うので、生徒が興味をもって参加できてよかった。
- ・実際に活動している場所に雨を降らせることや、雨の量を変化させることができ、生徒たちが比較をすることができた。
- ・リアルな状況を再現できており、生徒も教師もイメージが膨らませやすかったのがよかった。
- ・教室の中で天候関係なく、安全に体験できてよかった。
- ・生徒がVRに興味をもって大雨時の視界を体験できてよかったと思います。VRの体験により、実際の災害の危険性について考えられるように使えるとよいのかなと思った。
- ・実際に目で見て雨の量や見え方を体験することができてよい。
- ・間違いなくリアリティー感が高かったと思うが、知的障がいのある生徒が本当にどう思っているか知るすべがあまりない点はよくなかった。
- ・浸水の映像を見ながら、水を張ったところを歩くなど、デジタルとアナログの融合ができるのもっと良いと思った。

### 4 事業の成果、効果等

今年度助成金を頂き、授業を行う中で、従来の命を守る訓練や防災教育ではできなかった教室内でリ

アリティーのある学習を行うことができた。コロナ禍で校外に出たり外部の講師を招いて授業をしたりすることが難しい中で、デジタルコンテンツと ICT 機器を活用することで、自分たちの教室にしながら体験的な学習を行うことができた。そしてそこに活動テーマの防災教育を合わせることで、ただ話を聞く、ビデオを見るだけではなかなか自分のこととして捉えることのできなかつた事象を自分の視点で見ることによって、自分にも起こりうることとして見ることができているように感じる。

代表的な例として、寄宿舎で行った浸水の疑似体験では、毎日使用している多目的室に床上浸水を投影した。生徒に「寄宿舎でこんなことが起きたらどうする。」と尋ねると「2階に逃げます。」との回答が出た。しかし体験を行った部屋は2階であることを一緒に確認すると、「早めに逃げます。」と新しい答えを出した。これは自分の日常的に使用している空間で疑似体験を行ったことで生徒が自分の力で出せた答えではないかを感じている。特別支援学校に通う児童生徒の多くは聞いただけのことや見たことないことを自分に置き換えて考えることが苦手である。そんな子どもたちにとって、ICTを活用した防災教育が非常に効果的であることが実感できた。



### 教室にしながら体験的な学習

ゴーグルをかけて豪雨の疑似体験をする生徒たち。



### AR お天気、使用画面

床上浸水を選択すると、自分のいる場所で浸水したらどのような様子を見ることができる。



### 浸水を疑似体験している生徒

潜ってみたらどうなるかという言葉が掛けると自発的にしゃがみ「前が見えません。」との回答があった。



ちかい

わたくしは

青少年赤十字の一員として

心身を強健にし

人のためと郷土社会のため

国家と世界のために

つくすことをちかいます

2020年度

岐阜県青少年赤十字防災教育推進校活動事例集

令和3年4月1日発行

日本赤十字社岐阜県支部

〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9

TEL (058) 272-3561 FAX (058) 274-6938